

津波にのまれたモノに堆積した時間。

モノたちが語る声に耳を傾ける。



六田知弘写真展

# 3.11 時のイコン

東日本大震災の記憶

2014年1月18日(土)－2月2日(日) 入場無料

開館時間 9:00-17:00(入館は16:30まで) 休館日 1月20日(月)、27日(月)

併催 第32回 渋谷区小中学生絵画展

渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14

TEL 03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>



# 六田知弘写真展

## 3.11

# 時のアイコン

## 東日本大震災の記憶

写真家六田知弘氏は、日本の仏像、ヨーロッパのロマネスク教会や雲岡石窟など、「祈り」「時」をテーマに撮り続けてきました。

そして、あの3月11日に起こったことを、彼の視点から記録することをこころみました。被災地の瓦礫の中で見つけたモノを、一点一点撮影したのです。モノには被災する前にそれらを生活の中で使っていた人たちの時間、そして3.11の津波の瞬間の時間、さらにそれ以降の撮影されるまでの時間が堆積しています。持参した白い紙にのせて撮影したのも、モノたちの発する声を鮮明に聞き出し、その声を記録し伝えたかったからです。タイトルにあるアイコン (ICON) とはキリスト教の聖画を意味しますが、被災地で見つけたモノにむける六田氏の視線には、そうした鎮魂と祈りが込められています。



2012.5.30 宮城県気仙沼市



2011.12.21 宮城県仙台市



2012.5.13 宮城県石巻市

### 六田知弘 (むだともひろ)

1956年奈良県に生まれる。1980年早稲田大学教育学部卒業。1982年よりネパール・ヒマラヤ山中のシェルパの村に暮らして撮影。1988年最初の個展「ひかりの素足—シェルパ」を開催。以降、「自然や宇宙との根源的なつながり」を遠くに探りながら、モノ、人物、風景、建築、道など様々な事象を対象に撮影し、写真展や出版を通じて発表する。また、「祈り」と「時」をキーワードに、仏像などの日本美術のほかヨーロッパのロマネスク美術、雲岡石窟、ポロブドゥール等のアジア各地の仏教遺跡など、文化財、古美術品の撮影も多い。

[主な写真展] 2005年「巡礼・日本美」(日本橋三越本店)、2007年「祈りの中世 ロマネスク美術写真展」(国立西洋美術館)、2008-2009年ルイス・オカニヤとの二人展「祈りの道 サンティアゴ巡礼路と熊野古道」(相田みつを美術館のほか和歌山県田辺市、パリ、サンティアゴで開催)、2009年「シートの光」(蕪山龍泉堂)、2009年～「サンティアゴ巡礼の道 六田知弘 東洋のまなざし」がヨーロッパ各地を巡回中、2010年「壁の記憶」(丸の内ギャラリー)、2011年「雲岡 仏宇宙」(蕪山龍泉堂)、2012年「OKUGAKE」(吉野山 金峯山寺)、2013年「Les Murs Du Temps」(時の壁) Galerie Yoshii Parisなど

[主な写真集] 『ひかりの素足—シェルパ』I.P.C.刊、『ポリの肖像』シングル・カット刊、『In Praise of Japanese Beauty』コエランス刊、『雲岡石窟 仏宇宙』富山房インターナショナル刊、『OKUGAKE』LLPブックエンド刊、『石と光』平凡社刊、『3.11 時のアイコン』平凡社刊など

### 《六田知弘氏 ギャラリートーク》

1月26日(日) 午後2時より [当館2階サロンミュージゼにて] ※申し込みは不要です

## 渋谷区立松濤美術館 The Shoto Museum of Art

〒150-0046  
東京都渋谷区松濤2-14-14  
TEL 03-3465-9421  
<http://www.shoto-museum.jp/>

- ・渋谷駅下車徒歩15分
- ・京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分
- ・ハチ公バス 丘を越えてルート (上原・富ヶ谷ルート) 「松濤美術館入口」下車徒歩3分



2012.11.10 福島県相馬市



2012.7.23 宮城県石巻市



2012.11.9 福島県広野町